



碧の風

千葉市立川戸中学校
校報 第10号
令和6年2月20日

三寒四温

校長 板垣 章子

先週は春一番の強風が吹き荒れました。朝の登校時、中学校わきの歩道を歩く小学生の黄色い帽子が宙を舞い、中学校のグラウンドへと飛ばされていきました。それを見た中学生がぱっと走り出し、帽子を拾って小学生に差し出していました。年長者が年少者をいたわろうとする気持ちが、ごく自然に川戸小中生に培われていることを再認識した、朝の嬉しいできごとでした。

2月4日は、2年生が2泊3日で福島県の「国立那須甲子青年自然の家」に行きました。インフルエンザや新型コロナウイルス感染症が心配される中での自然教室でしたが、誰一人発熱したりケガをしたりすることもなく、元気に3日間の活動を終えて学校に帰ってきました。寝食を共にすることで普段とは違う友達のよさに気づくとともに、実行委員会形式による主体的な取組や準備が功を奏し、集団としても大きく成長できました。

今回の校外学習は他校との日程調整により、あいにく日曜日出発となってしまいました。しかし休日にもかかわらず、多くの他学年職員が出発のバス誘導や一般車への対応、生徒の安全指導などを兼ねて、2年生の見送りに来てくれました。また帰校の2月6日は関東平野に積雪があり、大幅な遅れや保護者の送迎車誘導などの心配がありましたが、早朝からの雪かきをはじめ、全職員で協力して対応してくれました。

本校は小規模校であるため、職員間の連携が欠かせません。学年が異なっても、学級のことや生徒のことを相互に情報交換しあい、助け合いながら教育活動を進めています。特に安全を最優先させるべき場面では、率先して職員が協力してくれることが自慢です。5月の修学旅行到着時の土砂降りの中での下校指導や送迎車対応でも同様でした。また台風、不審者、生徒の急なケガや病気など緊急時を中心に、積極的に学年の枠を越えて動くことが習慣となっています。外部の方々から見ると未熟な点や不行き届きの点は多々あるとは思いますが、精いっぱい努力していることについてご理解いただけますと幸いです。

2月も半ばを過ぎ、1、2年生は今年度の定期テストをすべて終えたところです。返されるテストに一喜一憂しながらも、1年間の成長と今後の課題を自覚する大切なまとめの時期となります。一方3年生は、明日20日から、いよいよ公立入試本番です。自分を信じて、全力を尽くしてくれることを願っています。

頑張れ、川戸中生！

<記事の内容>

自然教室に行ってきました

青少年のインターネット利用について

自転車の安全利用について

公立高校の入学者選抜について